

指導行政のポイント

“新教科書”はどこまで改善されるか

菱村 幸彦

昨年の暮れも押し詰まった12月25日、教科用図書検定調査審議会から文部科学大臣に「教科書の改善について～教科書の質・量両面での充実と教科書検定手続きの透明化～」と題する報告書が提出された。

新指導要領に対応する教科書

この報告書は、新しい教育課程に対応した教科書づくりを目指すもので、新指導要領の総則等に示された「知識・技能を活用する学習」「繰り返し学習」「補充的な学習」「発展的な学習」「思考を深める学習」などに役立つ創意工夫にあふれた教科書づくりの方策を明らかにしている。

報告書は、教科書改善の基本的な方向性として、教育基本法の目標を踏まえた教科書改善、知識・技能の習得、活用、探究に対応するための教科書の質・量の充実、公正・中立でバランスのとれた教科書記述、記述内容の正確性の確保、意欲的に学習に取り組むための教科書編集上の配慮・工夫、検定の透明性を高める手続きの改善の6点について提言している。

これらの基本方向のうち、の教育基本法改正を踏まえた教科書の改善については、改めて言うまでもないし、の公正・中立な教科書やの正確性の確保などは、これまでも教科書の編集や検定では常に留意されてきたことだから、特にコメントするまでもない。

注目したいのは、の教科書の質・量の充実と、の学習意欲を促す教科書編集上の配慮工夫である。まず、報告書は、知識・技能の習得、活用、探究に対応するため教科書の質・量両面での充実策として、補充的な学習や発展的な学習に関する内容、繰り返し学習のための練習問題等、観察・実験やレポート作成に関する記述、実生活に関連づけた記述や

話題・題材 などの充実を求めている。

次いで、児童・生徒が意欲的に学習に取り組むための教科書編集上の配慮・工夫として、丁寧でわかりやすい記述の工夫、小・中学校の学習内容の円滑な接続への配慮、児童・生徒が興味関心をもって読み進められるような話題や題材の選択、家庭でも自学自習できるような練習問題や文章量の充実、本文と関連づけられたイラスト・写真などの活用などを挙げている。

ノートや週刊誌より安い教科書

報告書が示すような改善が実現したら、教科書は大きく変わるであろう。しかし、教科書が報告書の示す方向に変わるためには、何にもましてページ数の大幅な増加が不可欠である。

周知のように、現在の教科書は、質はともかくとして、量がきわめて薄い。おそらく、先進諸国のなかで日本の教科書が一番ページ数が少ないのではないか。

なにしろ現在の小・中学校のほとんどの教科書の値段は、ノートや週刊誌よりも安いのだ。例えば、小学校の書写、保健、図工、音楽の教科書は、ノート（200円）より安い。小学校の国語や中学校の英語の教科書は、週刊誌（350円）より安い。比較的厚みのある中学校の国語教科書や社会科教科書でも文庫本（700円）なみである。

この値段でページ数の多い教科書を作るのは不可能というよりない。

教科書の改善が絵に描いた餅にならないためには、まずもって教科書の定価を上げることが先決である。国家財政の厳しい折から、果たして、小・中学校の教科書の定価をどこまで上げることができるか。これは今後の大きな課題となろう。

（ひしむら・ゆきひこ = (財)学習ソフトウェア情報研究所 理事長）

■最新刊！

菱村幸彦【著】 B6判・定価2,205円

教育開発研究所

全訂新版『はじめて学ぶ教育法規』法改正を踏まえて全面改定！

『各教科等における言語活動の充実』高木展郎【編】B5判・240頁・2,520円